様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２２ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１３１７５

研究課題名（和文）ルーマニアとモルドバにおけるブルガリア系住民の言語保持に関する社会言語学的研究

研究課題名（英文）Sociolinguistic Study on Language Maintenance by Bulgarians in Romania and Moldova

研究代表者
菅井　健太（Sugai, Kenta）

北海道大学・文学研究院・准教授

研究者番号：２０８２４３６１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ルーマニアとモルドバに居住するブルガリア系住民の言語保持に関わる社会言語学的な研究である。同化圧力を有するマジョリティの言語や文化との接触下でブルガリア系マイノリティの人々が現状としてどの程度ブルガリア語を維持しているのか、あるいはマジョリティの言語への取換えが進行しているのかに関する今日における実態を現地調査を通じて総体的に解明した。加えて、その背景にある社会情勢、話者の言語使用や態度、アイデンティティの問題など社会言語学的な要因を踏まえ、言語接触や言語景観を通じた分析や集落間の対照研究の手法も取り入れながら、言語保持の仕組みの一端を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、体制転換による民主化を経たルーマニアとモルドバにおいてブルガリア系住民が置かれている最新の社会言語状況を捉え、それに基づいて彼らの言語保持の実態を明らかにした点に意義がある。加えて、既存の研究には欠けていたルーマニアとモルドバのブルガリア語方言の状況の対照分析という視点は、在外ブルガリア系住民の言語状況をより相対的にとらえることを可能としたばかりでなく、新たな学術的な研究の可能性をも開いた。また、本研究の成果は現地のブルガリア系住民への還元という側面を持つとともに、一事例研究として一般にマイノリティの言語や文化の保持活動に関わる人々に対しても重要な知見をもたらすものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This is a sociolinguistic study on the language maintenance of Bulgarian people living in Romania and Moldova. I comprehensively clarified the current situation of language maintenance and shift in Romania and Moldova. I examined to what extent Bulgarians are maintaining their language in the face of assimilation pressure that accompanies contact with the majority's language and culture. Specifically, is Bulgarian being replaced by majority languages such as Romanian or Russian? Additionally, I clarified a part of the mechanism of language maintenance based on sociolinguistic factors such as the use of the language by and the linguistic attitudes of the speakers, and identity issues. I incorporated methods of analysis that explore linguistic change and landscapes as well as contrasting research between Bulgarian settlements.

研究分野：言語学

キーワード：社会言語学　言語保持　言語取替え　言語接触　言語変化　言語景観　ブルガリア語

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

ルーマニアとモルドバには歴史的な背景からブルガリア系住民が居住しており、少数派言語としてブルガリア語方言が話されている。ブルガリア系住民の言語状況は、ルーマニアとモルドバで大きく異なる。ルーマニア（特にワラキア地方）では、ルーマニア語への言語取替えが進んでいる一方で、モルドバでは概してブルガリア語は良く維持されており、ブルガリア系住民の同化もそれほど進んでいない。

ルーマニアやモルドバのブルガリア系住民を取り扱う既存の研究の多くは、歴史学や民俗学、方言学からのアプローチが主流であり、同化圧力を有するマジョリティの言語との接触下にあるブルガリア系マイノリティの言語保持に関する社会言語学的な側面の研究は不十分であった。

加えて、ルーマニアとモルドバのブルガリア語方言に関する研究は、大半が半世紀以上前に実施された言語調査に基づくものであり、体制転換による民主化を経た両国のブルガリア系住民の現在の言語使用の実態を踏まえた最新のデータに基づいた分析が必要とされた。さらに、これまでの研究では、その歴史的背景から連続性を持つルーマニア（ワラキア地方）とモルドバのブルガリア系住民の言語状況を比較によってとらえるという視点が欠けていた。異なる現状を有する在外ブルガリア系マイノリティの言語文化保持の状況を相対的にとらえることで、少数派言語生き残りやマジョリティとの共存のための知見を引き出す必要があった。

２．研究の目的

本研究は、ルーマニアとモルドバのマイノリティであるブルガリア系住民のブルガリア語方言の言語使用の実態や現状について、関係者に対する聞き取りや関連資料の収集などの現地調査に基づき記述・分析を行うことを第一の目的とした。また、ルーマニアとモルドバのブルガリア語使用の現状を踏まえて、マイノリティであるブルガリア系住民の言語文化がどのように保持され、あるいは失われていくのかという問題について、言語政策や話者自身の言語意識、アイデンティティなどの社会言語学的な要因に注目しながら、ルーマニア・モルドバ両国の状況の比較を踏まえた検討・考察を行うことを第二の目的とした。

３．研究の方法

まず、現地調査や言語保持の問題の検討に先立ち、ルーマニアとモルドバの一般的な言語状況について、両国の国勢調査による統計資料から人口動態に関する基礎情報の整理と記述を行ったほか、共に基幹民族がルーマニア語話者であるにもかかわらず、別の国家としての道を歩んできた歴史的経緯を踏まえて、両国の言語状況の発展プロセスについて、歴史的観点から整理・分析を行った。

次に、現地調査を実施した。ルーマニア・モルドバのブルガリア系集落を訪問し、ブルガリア系住民に対して、言語使用や言語意識、民族的アイデンティティなど、言語保持に関わる諸問題についてのインタビュー調査やアンケート調査を実施したほか、地元の学校の教員や生徒、ブルガリア文化関連施設でブルガリア文化保持活動に従事する関係者に対する聞き取り調査も行うことで、ブルガリア語を取り巻く言語状況の総体的な記述に努めた。このほか、街中や様々な施設における標識や看板などでの言語使用の実態を把握することを目的とした写真撮影による資料収集も行った。

以上の調査で収集した資料やデータに基づき、ルーマニアとモルドバの複数の集落におけるブルガリア語保持の現状とその背景にある保持を支えた、あるいは言語取替えを進行させた仕組みについての分析を行った。そのうえで、ルーマニアとモルドバにおける言語状況や言語政策がいかにマイノリティであるブルガリア系住民の言語文化の保持に関与しているかについて対照分析を行った。分析にあたっては、言語活力に関する指標、言語保持・取替えに関する枠組み、言語景観、言語接触論など様々なアプローチを適用した。

４．研究成果

本研究の結果、まず、21 世紀前半におけるルーマニアとモルドバのブルガリア系住民の言語使用・保持の現状が概ね解明された。概して、ルーマニア（ワラキア地方）側よりも、モルドバ側のほうがブルガリア語は多くの世代によって保持され、また社会におけるその使用領域も広いと言える。モルドバの中でも、モルドバのブルガリア人中心地とされるタラクリア県においては、ブルガリア語は公共機関の標識を含む言語景観にすら見出される一方で、沿ドニエストルのパルカニ村では民族間共通語のロシア語の社会的威信が強く、ブルガリア語は家庭や仲間内の領域を出て用いられることはあまりない。しかし、それもルーマニア（ワラキア地方）に比べれば、学校教育におけるブルガリア語授業が部分的に導入されているなど、言語維持にはずっと好都合な環境にあると言える。ルーマニアのブラネシュティ村ではブルガリア語を維持するのは現在ではごく一部の高齢者に限られ、ブラネシュティ村のブルガリア語方言は危機言語であり、その記録は喫緊の課題であった。20 世紀半ばの大規模な方言調査以来、ルーマニア（ワラキア地方）及びモルドバのブルガリア語方言の実態調査は十分に行われてこなかった。それゆえ、体

制転換による民主化を経て、人々の移動が自由になった今日のグローバル社会における在外ブルガリア系住民の言語使用の実態や、ブルガリア語保持の程度について、現地調査に基づき比較の観点から相対的に示した点に、本研究の価値を見出すことができる。

言語維持・取替えには概して様々な要因が複合的に絡み合い、複雑な様相を呈するものであるが、本研究の結果、ルーマニアとモルドバのブルガリア系住民の言語維持・取替えのメカニズムの一端が解明された。ブカレスト近郊に位置するブラネシュティ村はマジョリティとの地理的な隔絶性がほとんどないため、社会的にも経済的にもルーマニア社会へと早くから取り込まれ、それと並行してコミュニティ外からの人口流入や族際結婚などを通じた人口動態の変動が起き、これらがコミュニティ内でのブルガリア語使用の機会を激減させることで、言語取換えが急速に進んだ。このほか、話者自身の母語に対する態度やアイデンティティも言語使用や言語維持の状態に大きく作用することも示された。他方、モルドバ側のパルカニ村はティラスポリ市とベンデルィ市という 2 大都市に挟まれていながらも、ダイグロシアが維持され、家庭での世代間母語伝達が継続された結果、若い世代でもブルガリア語が維持されている。これには、体制転換後にいち早く開始されたブルガリア語の言語教育も大きな役割を果たしている。同様のことはタラクリア県についても言えるが、大都市から離れているという地理的な優位性や当該地域におけるブルガリア系の割合の高さもまた、今日における同地域における言語活力の高さに貢献している。また、モルドバ側のブルガリア系住民に対してはブルガリア本国からの教師派遣や教材贈呈、本国の大学への進学に対する奨学金支援など、教育を通じた手厚い支援が行われているのに対して、ルーマニア・ワラキア地方のブルガリア系住民にはそれほど十分に行き届いていないか、少なくとも継続性がない。また、これと関連して、EU 加盟国であるルーマニア側の若者にとってブルガリアが進学・就職先となる可能性は低いのに対して、EU 非加盟国のモルドバ側の子供たちにとってブルガリアの大学への進学は、その後のブルガリア、あるいは西・中欧の EU 諸国での就職にもつながりうるため、ブルガリア語の習得は、自らのキャリア形成に重要な役割を果たす。子供たち自身もそのことを十分に理解しており、それゆえブルガリア語の習得のモチベーションが高い。このこともまた、モルドバにおけるブルガリア語の維持に好影響を与えていると考えられることも明らかになった。

ブルガリア本国ではルーマニア・バナト地方のバナトブルガリア人の言語文化に対する学術的関心は高く近年も多くの研究成果があげられているが、ルーマニア・ワラキア地方やモルドバのブルガリア系住民の言語文化は十分に注目されてこなかった。本研究はこれまでにほとんどなされてこなかったこれら地域を対象とした社会言語学的な記述・分析を試みている点でそもそも重要な意義を持つことに加えて、本研究の成果は、ルーマニアやモルドバのブルガリア系住民を対象に進んでいる方言学や固有名詞学などの隣接分野はもちろんのこと、歴史学・民俗学分野における研究、さらには教育学・社会学などの各方面における研究にも寄与するものと考えられる。さらに、本研究は、言語保持に関わる一つの事例研究に過ぎないが、世界中のマイノリティ言語の維持や言語復興に対する重要な知見も含んでいると言える。また、本研究を踏まえて、言語維持や取替えを引き起こす社会的な要因は、接触している言語の構造自体にはどのような影響をどの程度与えるものなのかといった側面の研究の展望が開けた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 Кэнта Сугаи	４．巻 11
２．論文標題 Языковой сдвиг в с. Брэнешть (Румыния)	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Збірник наукових статей "Мова. Свідомість. Концепт"	６．最初と最後の頁 59-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 菅井健太	４．巻 163
２．論文標題 ルーマニアのブルガリア語方言における言語変化について：ブラネシュティ村のブルガリア語方言を例に	５．発行年 2021年
３．雑誌名 北海道大学文学研究院紀要	６．最初と最後の頁 45-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Kenta Sugai	４．巻 -
２．論文標題 Съвременната езикова ситуация в Паркан, Молдова	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Contributions to the 23rd Annual Scientific Conference of the Association of Slavists (Polyslav)	６．最初と最後の頁 343-352
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kenta Sugai	４．巻 -
２．論文標題 On Some Syntactic Features in the Bulgarian Dialect of Parkani, Moldova	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Contributions to the 22nd Annual Scientific Conference of the Association of Slavists (Polyslav)	６．最初と最後の頁 277-284
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kenta Sugai	4．巻 54
2．論文標題 Past passive participles of intransitive verbs in the language of the Bulgarian minority in Romania: A closer look at contact-induced grammatical change. Nasite balgari sa dojdeni or dusleli	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Zeszyty Luzyckie	6．最初と最後の頁 51-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32798/zl.718	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kenta Sugai	4．巻 10
2．論文標題 On the Language Situation of Taraclia (Moldova) through the Linguistic Landscape	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Алманах "Българска украинистика"	6．最初と最後の頁 114-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kenta Sugai	4．巻 -
2．論文標題 A Contrastive Study of Bulgarian Minority Communities in Romania and Moldova: Language Maintenance and Shift	5．発行年 2023年
3．雑誌名 POLEMICS AND CHOICES Proceedings of the Fifteenth International Slavic Studies Conference 16th -18th June 2022, Sofia, Volume 1 LINGUISTICS	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kenta Sugai	4．巻 -
2．論文標題 The Future Tense Construction of 'Have' in the Bulgarian Dialect of Baleni-Sarbi Revisited: Grammaticalization and Language Contact	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Contributions to the 24th Annual Scientific Conference of the Association of Slavists (Polyslav)	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　1件／うち国際学会　10件）

1．発表者名 Kenta Sugai
2．発表標題 On the Language Situation of Bessarabian Bulgarians Today: A Case Study of Taraclia (Moldova)
3．学会等名 XV Международна конференция "Драгоманови студии" (Sofia University "St. Kliment Ohridski")) (国際学会)
4．発表年 2021年

1．発表者名 Kenta Sugai
2．発表標題 On the Borrowing of Verbs in a Bilingual Context: A Case of the Bulgarian Minority in Romania
3．学会等名 XXV Annual Scientific Conference of the Association of Slavists POLYSLAV (国際学会)
4．発表年 2021年

1．発表者名 Kenta Sugai
2．発表標題 Some Remarks on "imam" in Bulgarian: The "ima da" Construction
3．学会等名 ICCEES the 10th World Congress (国際学会)
4．発表年 2021年

1．発表者名 Kenta Sugai
2．発表標題 The Future Tense Marker in the Bulgarian Dialect of Baleni-Sarbi revisited
3．学会等名 XXIV Annual Scientific Conference of the Association of Slavists POLYSLAV (国際学会)
4．発表年 2020年

１．発表者名 Kenta Sugai
２．発表標題 Language Situation of the Bulgarian Minority in the Multilingual Context: A Case of the Parcani Bulgarian Dialect
３．学会等名 Scientific Conference POLYSLAV XXIII（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kenta Sugai
２．発表標題 The Language of the Bulgarian Minorities in Romania and Moldova: A Closer Look at Contact-induced Grammatical Change
３．学会等名 International Symposium "Minorities in the Eastern Balkans, Languages and Cultures"（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 菅井健太
２．発表標題 モルドバにおけるブルガリア系マイノリティの言語に関する一考察―ロシア語との言語接触の観点から―
３．学会等名 日本ロシア文学会北海道支部会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kenta Sugai
２．発表標題 Subject Pronoun Doubling in Bulgarian Spoken Language: Canonical or Dislocated? From Structural and Functional Perspective
３．学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kenta Sugai
２．発表標題 On the Problems of Bulgarian Language Teaching in Japan with regard to Grammar Terminology: Comparative Analysis of Learning Materials of Bulgarian Language for Japanese Native Speakers
３．学会等名 Japan and the European Southeast - Over a Hundred Years of Political, Economic, Cultural and Academic Interactions（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kenta Sugai
２．発表標題 On the Integration Strategies of Loan Nouns in a Bilingual Context: A Case Study of a Bulgarian Dialect in Romania
３．学会等名 17th Annual Meeting of the Slavic Linguistics Society (SLS-17)（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Kenta Sugai
２．発表標題 What Helps to Maintain a Minority Language?: A Contrastive Study of Bulgarian Minority Communities in Romania and Moldova
３．学会等名 Международна конференция Петнадесети славистични четения（国際学会）
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

北海道大学文学研究院ホームページ https://www.let.hokudai.ac.jp/staff/sugai-kenta

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関